

平和を引き継ぐために

学校法人清真学園 清真学園中学校3年 和田 ひなの

私は戦後八十年になった今年の夏休みに、予科練平和記念館という場所に初めて行ってみて、実際に見たり聞いたりして強く心に残ったことがある。そこには、特攻隊員が家族にあてて書いた手紙、戦時に使われていた食器や生活道具、当時の映画や写真など、教科書で学んできたものが実際に展示物として数多く並んでいた。特に、若い兵士が両親に感謝の気持ちを書き残した手紙を読んだときは、胸が熱くなった。彼らは私とそう年の変わらない年齢でありながら自分の未来をあきらめ、家族を思いながら戦地に向かわなければならなかつたのだ。さらに、最後の部屋で流されていた「実際に戦闘機を操縦していた人の気持ちを表す映像」は忘れられない。戦争に行かなければならなかつた若者たちの思いや、残された家族の悲しみを考えると、胸が締めつけられるような気持ちになつた。

今まで私は、「戦争は恐ろしいもの」と頭では理解していたが、実際に資料を見たり、その場の空気を感じたりすることで、想像以上に戦争の恐ろしさを実感することができた。そして、そのような学びの場があるのは、税金によって記念館が建てられ、運営されているからだと知り、改めて税金の大切さを感じた。もし税金がなければ、私たちはこのように過去を学び、未来へ平和を語り継ぐことも難しいと思う。

税金は、平和記念館のように歴史を伝えるために使われているだけではない。私たちが毎日通っている学校の建物も、みんな税金で支えられている。道路や橋が安全に整備されていること、病気や怪我したときに病院で治療を受けられること、そして地震や台風などの災害が起きたときにすぐに復旧が進められることも、税金があるからこそ可能なのだ。さらに、子どもやお年寄りが安心して生活できるようにする福祉、自然環境を守るための取り組み、スポーツや文化を楽しめる施設づくり、電車やバスといった公共交通の整備など、幅広い分野で税金は私たちの生活を支えている。最近では科学研究や新しい技術の開発、未来のエネルギーを考える取り組みにも税金が使われていると知り、驚いた。税金は過去を学ぶためだけでなく、これから社会をよりよくするための投資でもあるのだ。

私は今回の体験を通して、税金は「みんなで出し合って、みんなで安心して暮らせる社会を作るためのお金」だと実感した。だからこそ、集められた税金を必要なところにきちんと使っていくことが大切だと思う。私も大人になつたら、しっかりと税金を納めるだけでなく、その使い道にも関心をもちたい。そして、未来の人たちが平和で安全に暮らせるように、税金を通して社会に貢献できる大人になりたいと思う。戦争を知らない私たちだからこそ、税金を通して平和を守り、次の世代に安心できる社会を引き継いでいきたいと強く感じた。